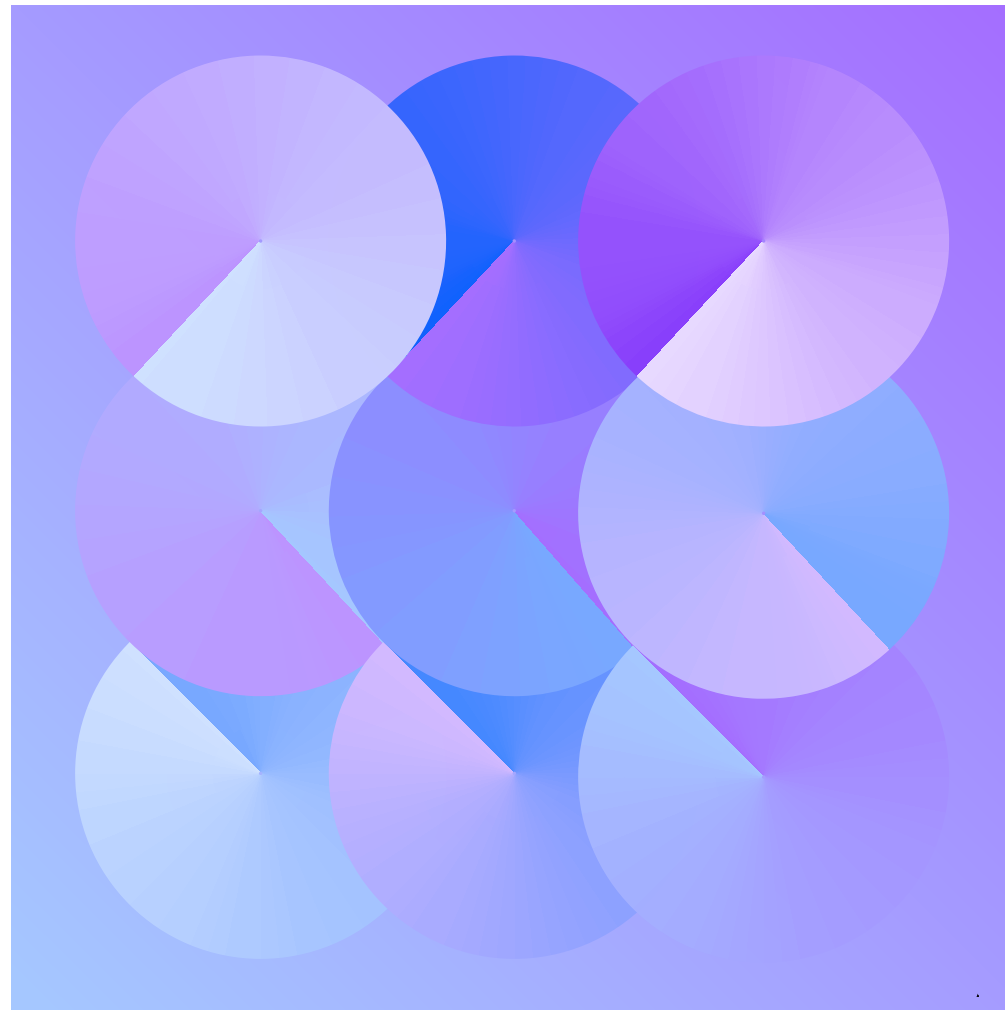


企業のための AI ガバナンス ガイド

「信頼」のために無視できない3つの要素

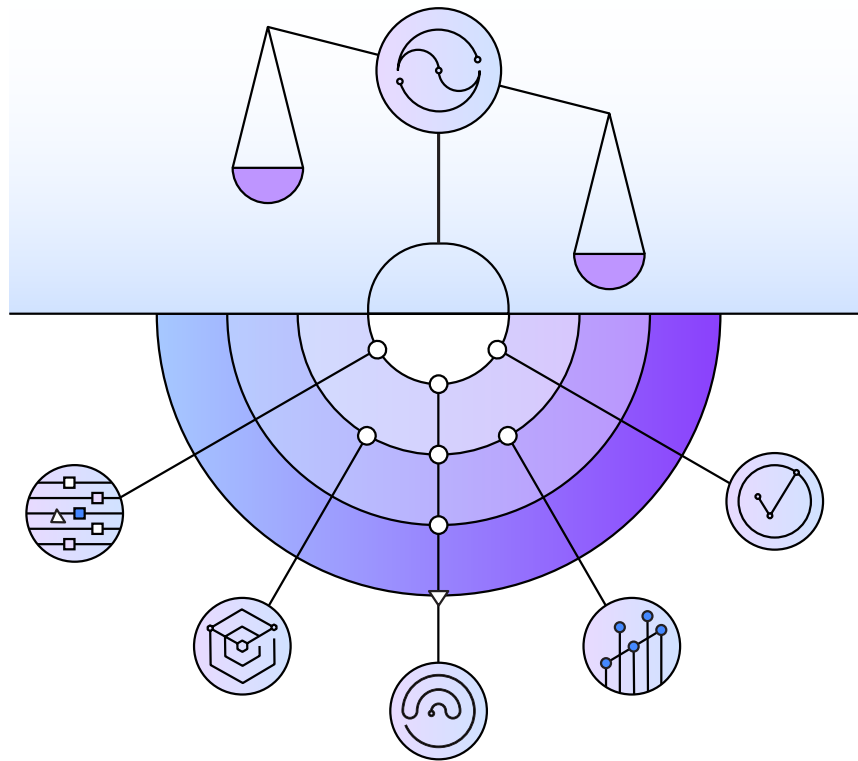


はじめに

生成 AI ガバナンスを 取り巻く現状

IBM Institute for Business Value (IBM IBV) は、生成 AI そのものや、それが世界中の組織にもたらすチャンスと課題について、レポート・シリーズを発表している。このリサーチはその概要の一部である。

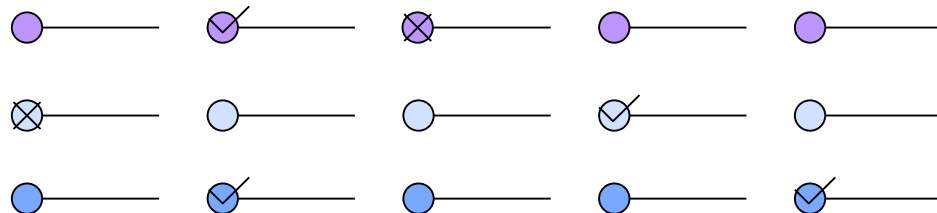
経営層が競争力と生産性を強化すべく生成 AI 導入を進める中、リーダーは絶えず変化する環境について情報を必要としている。その他のレポートも併せてお読みいただきたい：「2024 年 5 つのトレンド：2024 年に羽ばたくビジネスの両翼は、『Deep Tech』、そして『Deep な“信頼”』」「CEO のための生成 AI 活用ガイド：リスク管理」「CEO のための生成 AI 活用ガイド：『責任ある AI』と倫理」。



序章

AI ガバナンスがこれまで以上に重要となっている理由

生成 AI（最先端の人工知能）は、2 年足らずで目新しい技術からビジネスの必需品へと変化した。生成 AI 戦略が「探索」から「集中」へ、そして「拡大」へと急速に移行する中、IBM IBV の最新調査によると、経営層の 77% は、生成 AI を市場投入する準備を進めるだけでなく、競争力を維持するために速やかな市場導入が必要であると確信している¹。



生成 AI は、コーディングの数日から数分への時間短縮、コンテンツ制作の高速化、顧客や従業員とのパーソナライズされた対応、サイバーセキュリティ運用の自動化など、多くのプロセスを効率化する。しかしそれと同時に、AI 関連のリスクも高まっている。例えば、コンプライアンスと規制の問題や、データのバイアスと信頼性の問題、そしてユーザーが AI モデルの運用とガバナンスを理解していないがゆえに起こる信頼喪失などである。

ガバナンスとは、AI ツールおよび AI システムの原則やポリシー、責任ある開発の実践を指す。それは、倫理や人間尊重の価値観に基づいたものである。ガバナンスは AI 組織体制やルール、標準を確立し、組織が「価値がある」とした原則に沿って AI の研究、開発、応用を統率する。また、強固な AI ポリシーやデータ管理、さらに十分にトレーニングやメンテナンスされたデータセットを徹底するガバナンスは、AI に伴う潜在的なリスク（バイアス、差別、個人への危害）を軽減する²。

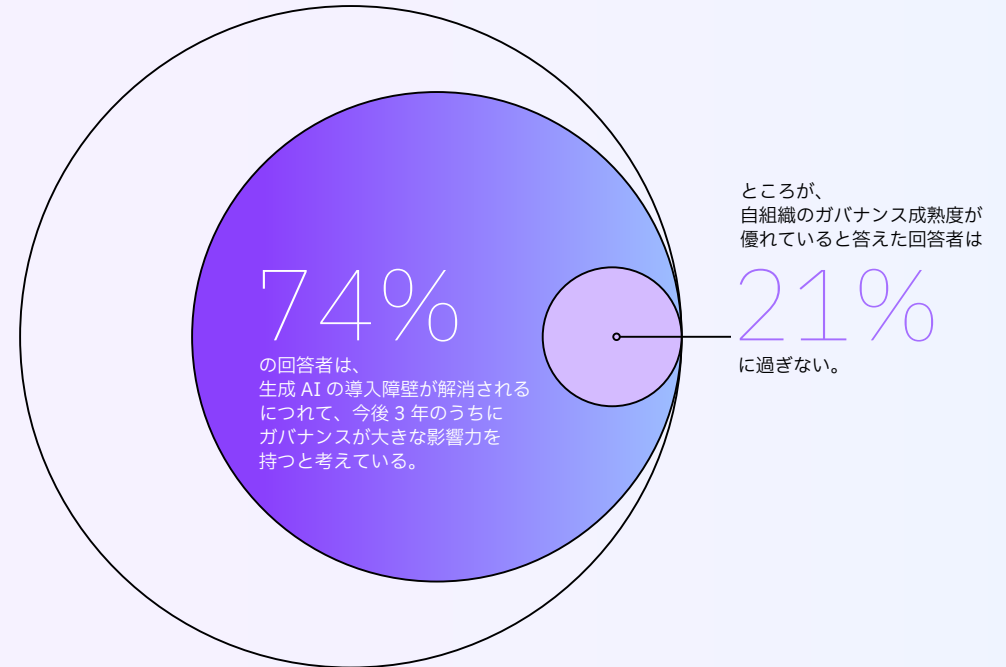
効果的なガバナンスは、信頼ある基盤構築の鍵だ。AI モデルがどのようにトレーニングされ、どのように管理されているか監視していれば、組織はより優れたモデル構築が可能になるだけでなく、「自分が利用する情報やサービスは信頼できる」と従業員や顧客、パートナー、その他の利害関係者を安心させることができる。

ガバナンスは成長のカタリスト（触媒）にもなり得る。例えば、顧客とのつながりをいっそう有意義なものにする。これは、リスク管理やコンプライアンスを超えて、チャンスを開拓しようという経営の考え方の一部だ。しかし問題なのは、組織のガバナンス成熟度が「体系的または革新的」と答えた経営層が、IBV の調査によるとわずか 21% にとどまっていたことだ（図 1 参照）。

AI 開発では、トレーニングからチューニング、推論、出力に至るまで、あらゆる段階でリスクが発生する可能性がある。MIT の研究者は最近、企業が AI 環境に関して持っている認識のギャップや不透明さを特定するための AI 関連のリスクをリストにまとめたが、その数は 750 種以上に及んでいる³。

図 1

ガバナンスは成長のカタリスト（触媒）にもなり得る。
例えば、顧客とのつながりをいっそう有意義なものにする。

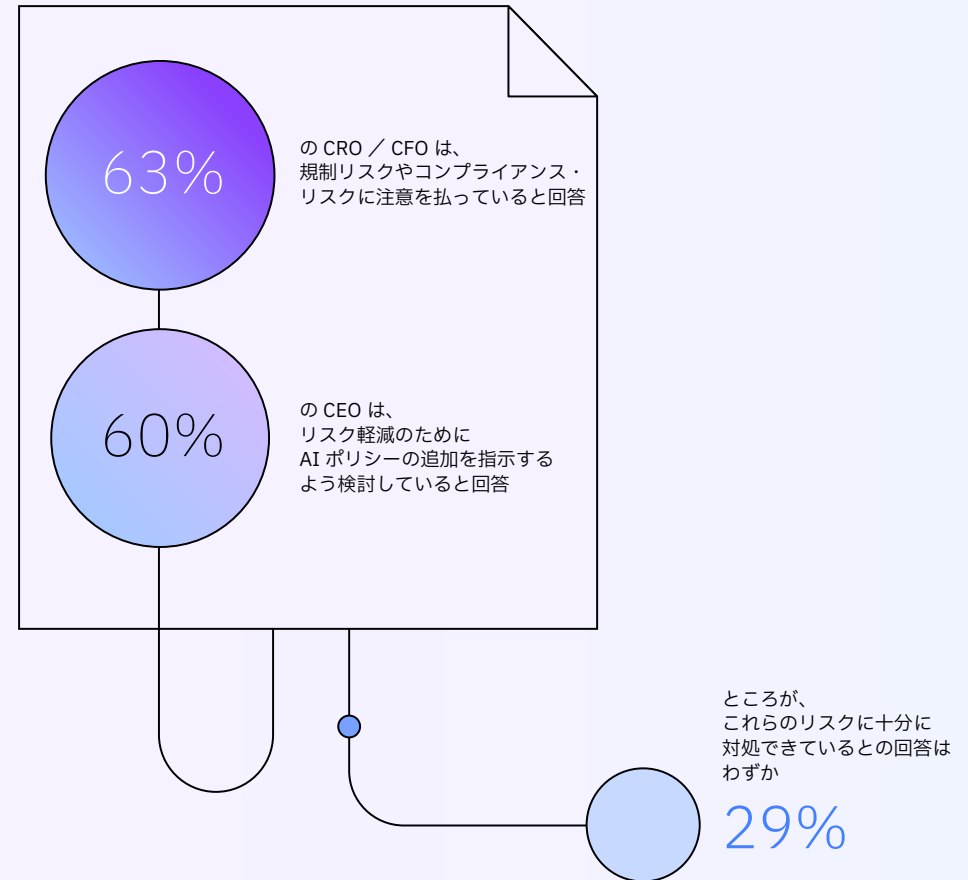


ガートナー社の最近のコンファレンスでは、データ管理者の 65% 以上が、2024 年の最重要課題として自社のデータ・ガバナンスを挙げた⁴。経営層は自社に改善の必要性があると認めており、CEO の 60% はリスク軽減のために AI ポリシーの追加を指示するよう検討している。CRO と CFO の 63% は、規制リスクやコンプライアンス・リスクに注意を払っていると答えたが、そうしたリスクに十分に対処できているという回答は 29% にとどまった(図 2 参照)⁵。上場企業の約 27% は、米証券取引委員会 (SEC) へ提出した最新の書類の中で、AI 規制をリスクの 1 つとして挙げている⁶。

では、ビジネス価値を最大限に引き出すために、生成 AI の取り組みを迅速に推進しつつ、安定した運用を確保するためのガバナンスや安全対策 (ガードレール) はどのように構築すればよいだろうか。本レポートでは、リーダーにとって重要なこの課題について、「信頼の 3 つの主要素」という観点から具体的なアクションを提案する。

図 2

AI ガバナンスがこれまで以上に重要となっている理由



信頼できる AI は効果的なガバナンスにかかっている。右に示した「信頼の3つの主要素」の導入が、ガバナンス体制構築の出発点となる。



信頼の要素 1

説明責任：誰が AI ガバナンスに責任を持つのか？

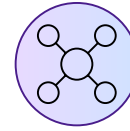
効果的な AI ガバナンスを実現するには、役員層による資金と指示がなければならない。全社的にガバナンスを導入するには、リスクを軽減し、ビジネス目標の達成を可能にする柔軟な体制づくりが必須だ。



信頼の要素 2

透明性：データ・ソースをどう評価し、何を共有するか？

モデル構築に使われるデータを評価し、AI ユーザーの幅広いニーズや期待に見合ったものとするには、多分野にわたる人材から成る横断的なチームを展開する必要がある。これにより、モデルがどのように監査され、人間と比較してどのように機能するかについての疑問に答えることができる。



信頼の要素 3

説明可能性：AI システムや AI モデルの出力をどう説明するか？

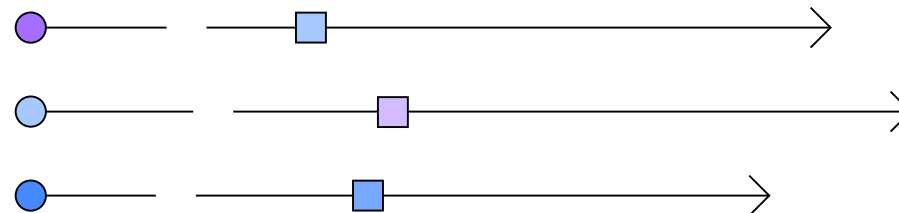
人間と AI システムの真の連携は、透明性と説得力に基づき、人間の感覚を AI の意思決定に加えることで成り立つ。モデルの来歴の共有は、信頼の基礎である。

これらの信頼の要素の中心には、明確な AI ガバナンスの実践とポリシーがある。ガバナンスが欠如すれば、信頼できる倫理的な AI システムの導入が難しくなる恐れがある。対して、生成 AI 自体が、企業全体のガバナンス強化に貢献する可能性もある。

AI ガバナンスに関わる 3つの重要用語

透明性、説明可能性、データの来歴

効果的なガバナンスは、組織的な指示、スタッフ、プロセス、システムを通じて達成される。これにより、利害関係者の期待や規制要件を確実に満たしながら、組織の思い通りに AI システムを動かせるようになる。AI ユーザーが AI ライフサイクルのあらゆる段階で統率、評価、監視、是正措置を行えるようにするには、ガバナンスに「透明性」「説明可能性」「データの来歴」の観点を欠かすことはできない。



「透明性」とは、ある AI システムがどのように設計・開発されているか把握できる能力である。多くの場合、それは AI システムの詳細を適切に共有することによって支えられる⁷。信頼できる AI モデルを構築するには、アルゴリズムがブラックボックスと受け取られてはならない。AI の出力結果を信頼できるものとするには、AI 開発者、ユーザー、利害関係者が AI 内部の仕組みを理解できるようにしなければならない。

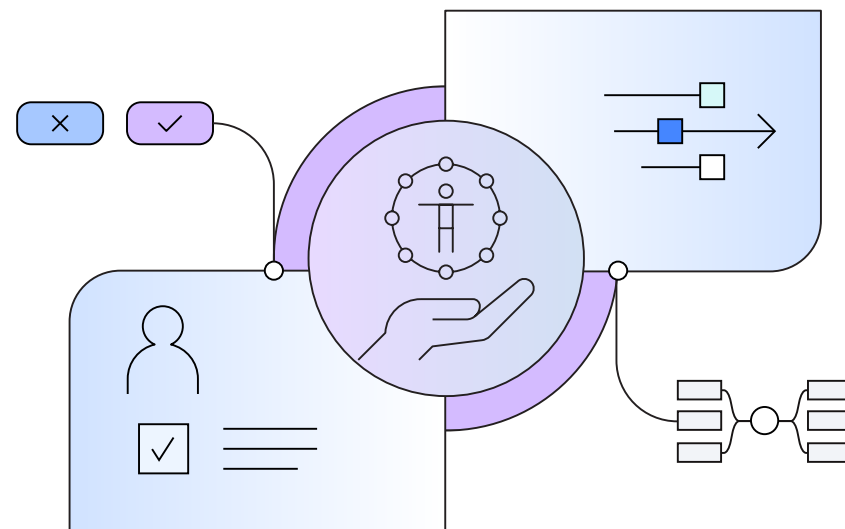
AI の文脈でいう「説明可能性」とは、AI による判断を人間が理解しやすくするための実践およびツール、設計原則をまとめて指す⁸。AI システムの説得力が高ければ

高いほど、人間が信頼して利用できるインサイト（洞察）を提供する能力も高まる。各組織はそれぞれのガバナンス体制の範囲内で、目的に合った説明方法を採用する。

「データの来歴」とは、トレーニングに用いるデータの出自を、AI モデルのライフサイクル全体を通じて説明・検証できる能力を指す⁹。これは、入力データの正確性を確保し、AI が生み出すインサイトや判断への信頼性を高めるために不可欠だ。メタデータをデータ・ソースから記録することにより、データの来歴が提供されることで、データの検証や監査ができるようになる。ひいては AI 出力に精度と信頼性の向上をもたらす。

誰が AI ガバナンスに責任を持つのか？

信頼の最初の一步は、明確な「説明責任」だ。IBV の調査では、経営層の 60% が生成 AI リーダーを明確に定義し、組織全体に配置していると答えている。また、ほぼ同数の 59% が、全社的な AI 導入を担う直属の部下がいると回答した。さらに、経営層の 80% は、AI や生成 AI の使用に特化した独立のリスク管理機能を置いていると答えている。AI を開発・展開する中、意図しない損害や、望ましくないバイアスのリスクを確実に減らしたいと考えているのだ。



信頼の要素 1 | 説明責任

IBM IBV が経営層やクリエイティブ・エグゼクティブ、クリエイティブ・マネージャー、デザイナーを対象に行った別の調査では、回答者の 47% が生成 AI 倫理委員会を設置済みで、倫理ポリシーの策定・管理や、生成 AI のリスク軽減に努めていることが明らかになった¹⁰。そうした委員会の目的は「適法だが不適切な (lawful but awful)」AI のリスクに対処することだ¹¹。全社的なガバナンス体制を構築することで、AI プロジェクトにおける技術倫理の問題を発見し、管理するプロセスが効率化される¹²。

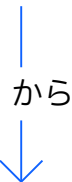
ガバナンスを支えるにはリソースの投入が必要だ。AI 支出全体に占める AI 倫理への支出は、2022 年の 2.9% から、24 年の 4.6% へと着実に増加している。25 年には 5.4% に増加すると見込まれる。

IBV のリサーチによると、技術的成熟度の高い組織ほど AI ガバナンスを重視する傾向にあることが示されている。例えば、CEO の 68% が、生成 AI ガバナンスを AI 導入後に後付けするのではなく、あらかじめ設計段階に組み込んでおく必要があると

答えた¹³。だが、成熟度の低いプレイヤーや、比較的新しい AI 参入企業は、ガバナンスで生じる複雑な選択に苦戦している。多くの場合、その解決策となるのは柔軟な AI ガバナンス体制だ。そのような組織体制は、市場変化に適応し、リスクを減らし、可能性を引き出す柔軟性を高める¹⁴。

AI 倫理への支出は
着実に増加

2022 年の 2.9%



2024 年の 4.6% に

この割合はさらに
増加する見込み

2025 年には 5.4% に

トップダウンで 強固な AI ガバナンス 体制を築く

1. 役員に AI / データ・ガバナンスの 取り組みをリードさせる。

「役員の優先事項はガバナンスである」というメッセージを伝える。経営トップが AI / データ・ガバナンスの推進役になることで、断片的なオーナーシップや、曖昧な説明責任に起因する失敗のリスクを最小限に抑えることができる。

2. 責任ある AI の開発および展開に 最優先で取り組み、発展させる。

AI ガバナンスの説明責任者に業務遂行の権限を与え、そのために必要なリソースを各責任者のチームに提供する。各チームは既存のガバナンス体制を土台として活用し、さらに発展させることもできる。

3. 役員に原則と実践の整合性を 確保させる。

AI 開発や調達の価値観を統一する。組織は自ら測定可能な成果を出すことで、原則と実践に整合性があると分かり、責任ある AI 導入が進んでいると確認できる。

4. ガバナンスの文化を築く。

強力で健全な文化基盤がなければ、AI ガバナンス体制を根付かせることは不可能だ。健全な文化とは、成功指標、インセンティブ、伝達とコミュニケーション、ダイバーシティとインクルージョン、心理的安全性、積極的な従業員トレーニング、および AI リテラシーに対する総合的なアプローチを含んでいる。

5. 利害関係者やエコシステム・パートナー との連携を促す。

組織全体の利害関係者を同じ目標に向かわせる。AI ガバナンス・ガイドラインやベスト・プラクティス、責任ある AI 使用の規制は、政府、業界団体、その他の団体との連携によって確立される。監査やその他のガバナンス・プロセスの範囲に、AI を組み込む外部ソフトウェア・ベンダーやパートナーが入っているか確認する。

Data & Trust Alliance

データ来歴の標準で AI の
ビジネス価値と信頼性を
強化¹⁵

Data & Trust Alliance (D&TA) は、「ビジネスの未来はデータと AI の責任ある使用によって支えられる」という共通理念のもと、2020 年に大手企業の CEO たちにより設立された。このコンソーシアムにはデロイト社、ゼネラルモーターズ社、IBM、ジョンソン・エンド・ジョンソン社、Mastercard 社、Meta 社、ナイキ社、UPS 社など、18 業種を代表する 27 社が名を連ねている。これら企業の総従業員数は 400 万人、年間売上高は 2 兆ドルを超える。

「AI の価値はデータの質にかかっている。その価値を形にし、信頼するには、データがどこから来ているのか、合法的に使用できるのかを理解する必要がある。Data & Trust Alliance のメンバーが、業界の枠を超えたデータ来歴の標準を通じて、新たなビジネスの実践を生み出した理由はそこにある」

Data & Trust Alliance、エグゼクティブ・ディレクター
Saira Jesani 氏

D&TA は、データ、モデル、および関連プロセスの信頼性を高めるためのツールと実践を開発している。2023 年、同コンソーシアムは業界の枠を超えたデータ来歴の標準一式を初めて策定した。その中には、データの出所や付随する権利など重要情報を提供する 22 種のメタデータ・フィールドなどが含まれる。

この標準は、「ビジネス価値」と「導入可能性」という 2 つの目的を念頭に作られた。D&TA のデータ来歴の標準を採用すれば、組織はデータセットを購入または使用する前にデータを深く理解できるようになり、データを拒否したりサードパーティーに変更を求めたりする根拠が得られる。標準の導入を促進するため、最も重要なメタデータのみが選択された。これらには、データ

セットの出所や、作成方法、合法的な使用の可否を詳しく知るために必要な情報が含まれる。

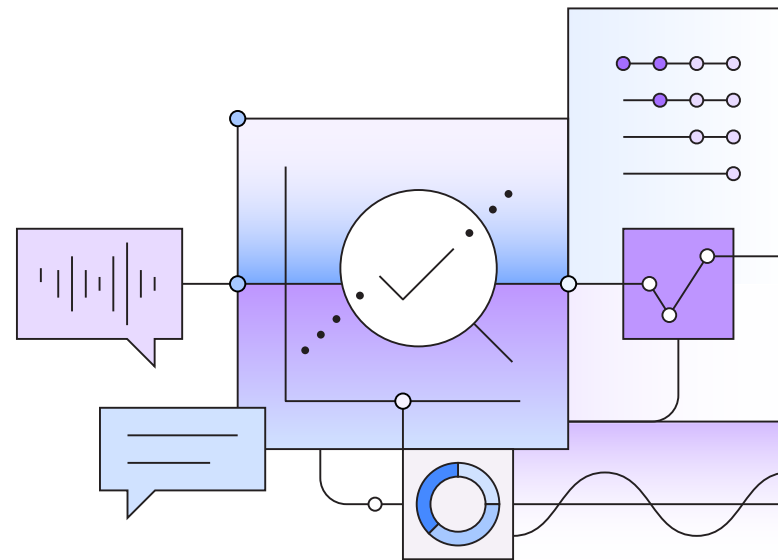
IBM は 2024 年初め、基盤モデルの学習用データセットを検証するプロセスの一環として、D&TA のデータ来歴標準をテストした。IBM のデータ・ガバナンス・プログラムには以前からデータ・クリアランス・プロセス*が含まれており、適切なコントロール、来歴の文書化、利用および再利用に関するガイドラインの策定をすでに定義していた。課題は、増加するデータ・クリアランスの要求に対応しなければならないことだった。そこで、IBM はプロセスをより効率的で高精度なものに最適化するため、データ来歴標準をテストしたのである。

その結果、効率（データ・クリアランスに要する時間）とデータ品質全体の両方が改善し、サードパーティー・データのクリアランス時間は 58%、IBM が所有または生成するデータのクリアランス時間は 62% 短縮された。D&TA の標準はこれらの改善に大きく貢献した。IBM は現在、さらに大企業向けデータ・ガバナンスを最適化すべく、必要に応じて D&TA データ来歴の標準を自社のビジネス・データ標準に取り入れている。

* データ・クリアランス・プロセス (clearance process for datasets) : データセットを使用する前に、そのデータの適合性や適切性を確認するプロセスのこと。具体的には、データが正確で信頼できるか、法律や規制に違反していないか、社内の基準やポリシーに従っているかをチェックする手続きを指す

AI データ・ソースをどう評価し、何を共有するか？

世界で入手可能なデータの 90% は過去 2 年間に生成されたものだ。これはまさに、好奇心の対象だった生成 AI が、普遍的な存在になった時期と一致する。毎日約 4 億テラバイトのデータが生成されており、2024 年には 150 ゼタバイトが生成されると推定されている¹⁶。しかし、こうした膨大な量のデータ管理は大きな課題を突き付けている。調査対象の CEO のうち、半数近くが精度とバイアスについての懸念を示している。この問題は、生成 AI が解決を約束するのと同じくらい多くの問題を引き起こす可能性がある。



人々に AI を利用してもらうには、まず信頼を獲得しなければならない。その最も効果的な方法は透明性を高めることだ。個人データに関して、透明性はプライバシーの基本原則である。それを保証するために、組織はデータ処理の方法を包み隠さずオープンにすることが求められる。そうすれば、人々は自分のデータがどのように使用され、共有されるかを判断し、意思決定することができる。

透明性を効果的なものにするには、説明可能性を示す必要がある。説明可能性とは、AI システムが下した予測の理由を、人間が理解できるようにインサイトを提供することだ。説明責任、データ、モデル、アルゴリズム、パフォーマンス、監査、および関連する要因について、明確な説明を示さなければならない（図 3 参照）。さもないと、組織は多大なリスクにさらされることになる。

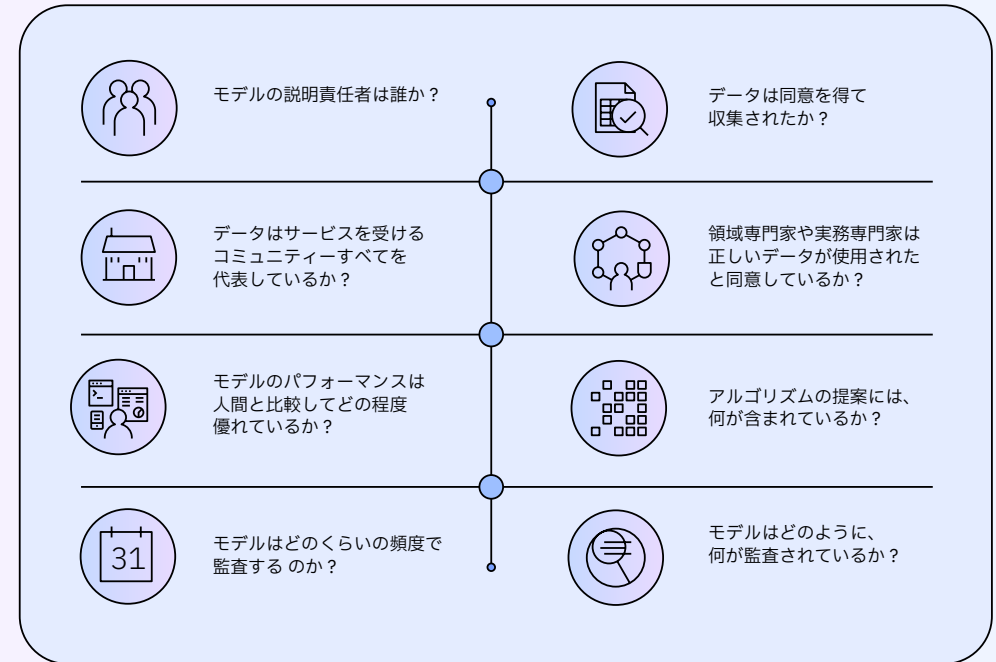
信頼の要素 2 | 透明性

透明性は、不透明なブラックボックスを解消し、正確かつ公正な意思決定を支える。データは人間の経験から生まれるため、データのほぼすべてがバイアスを抱えている。AI は、我々人間が持つバイアスの写し鏡だ。重要なのは、どのバイアスが我々の価値観を反映していないかということだ。バイアスが組織の価値観と一致するなら、なぜそのデータセットとアプローチを他のものより優先して選んだのかの理由について、透明性がなければならない。バイアスが組織の価値観と一致しないなら、別のアプローチが必要だ。

AI ガバナンスでは、多様な人材から成る分野横断的なチームが、前提条件を見落とさないよう、モデル構築とガバナンス双方を担当する必要がある。心理学、人類学、法律、哲学、言語学などの外部専門家も、私たちの価値観に合うよう、AI で人間の知性を拡張させるのに役立つ。また、AI モデルのさまざまな難しい潜在的影響について話し合う時、ガバナンス・チームに心理的セーフティー・ネットも必要だ。

図 3

組織が明確に説明しなければならない重要質問を以下に示す。



効果的な AI ガバナンス 構築に向けて ドリーム・ チームを 編成する

1. 分野横断的な AI ガバナンス・チームを設置する。

技術、倫理、社会科学といった領域から幅広い専門性を結集し、死角をなくす。このような多様性があることで、ギャップ（不十分な箇所）を素早く見つけ、既存のガバナンス・メカニズムが働き、予期せぬ影響を未然に防ぐことができる。

2. 透明性について、すべての従業員をトレーニングする。

あらゆるレベルの従業員に、それぞれの領域で責任ある AI モデルを構築・調達するための研修機会を与える。また、専門分野外の作業をする際には、監査などの支援を求めるべきタイミングについて認識させる。オープンで多様性を重視した文化を醸成することは、従業員のエンゲージメントを高める。

3. 規制順守の先を考え、問いを投げかける。

最善のガバナンスは、規則や規制よりもっと深いところにあり、それがイノベーションへの扉を開ける。まず規制順守の枠組みを構築しておけば、効率的に AI ポリシー、手順、業界標準を更新できるようになる。

4. 社外からアイデアを受け入れる。

多国間や国際的な標準の策定について学んだり、動向を追跡したりするほか、策定に参加するチャンスを探す。OECD が発表した AI 原則はよい出発点となるだろう¹⁷。生成 AI の導入が進むにつれ、国内外で追加の標準が設けられることが予想される。

オーストラリア 郵便公社

より効率的な
未来の実現¹⁸

オーストラリア郵便公社（Australia Post）は、郵便サービスを 4,310 拠点で提供し、年間売上高は 58 億ドルを超える。国有企業であり、個人情報や機密情報を多く扱う同公社は、透明性のあるルールで顧客の信頼を維持する必要がある。

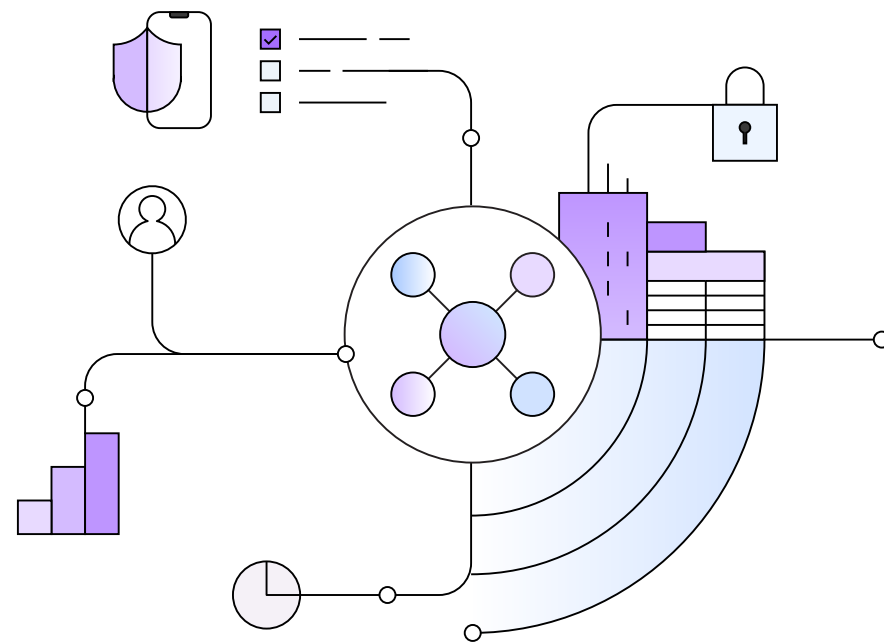
顧客サービスと効率の向上をミッションに掲げる同公社で、生成 AI は重要な部分を占めている。数千件に上る顧客電話への応答や従業員の端末操作をテスト・検証した結果を踏まえ、現在では、生成 AI が顧客の問い合わせを振り分けたり、定型的な質問に答えたりしている。今の目標は、通話の 40 ～ 60% を生成 AI で処理することだ。それが実現すれば、顧客体験を向上させつつ、コストを大幅に削減できるだろう。

特筆すべきは、多くの人が AI に懸念を抱いている中、同公社が生成 AI の導入を大いに進め、透明性を取り入れているということだ。同公社はすでにすべてのデータのレビューを実施しており、現在はデータ・ガバナンスについて厳格な手順を作成中である。規制の枠組みを順守するだけでなく、プライバシー・プロトコルとセキュリティー・プロトコルの強化にも注力している。

オーストラリア郵便公社は、顧客体験の向上とコスト削減のため、通話の 40 ～ 60% を生成 AI で処理するという目標に取り組んでいる。

AI システムや AI モデルの出力を どう説明するか？

AI を導入する組織が増える中、AI 活用は岐路に立たされている。2024 年の「Edelman Trust Barometer」調査では、回答者の 35% が「このイノベーションを受け入れる」と答えているが、「拒絶する」という回答もほぼ同じ割合（30%）に上っている¹⁹。そのため、AI の信頼性を実証することが、AI のインパクトを最大化する鍵となるだろう。信頼性の高い AI は、新たなアイデアの創出にも貢献する。これにより、イノベーションに取り組む人材と、最低限の業務しか遂行しない人材との差別化が図られる。



信頼の要素 3 | 説明可能性

信頼できる AI の基本要素の 1 つとして、データ来歴の標準、つまりデータの出所と履歴をデータ・ライフサイクル全体で説明・検証できる能力も重要だ。AI モデルのトレーニングにおいて、データが本物で信頼できるものであると保証するにはデータ来歴が不可欠である。AI モデルに信頼性のあるデータを入力することで、AI が生み出すインサイトや判断の信頼性が高まる。

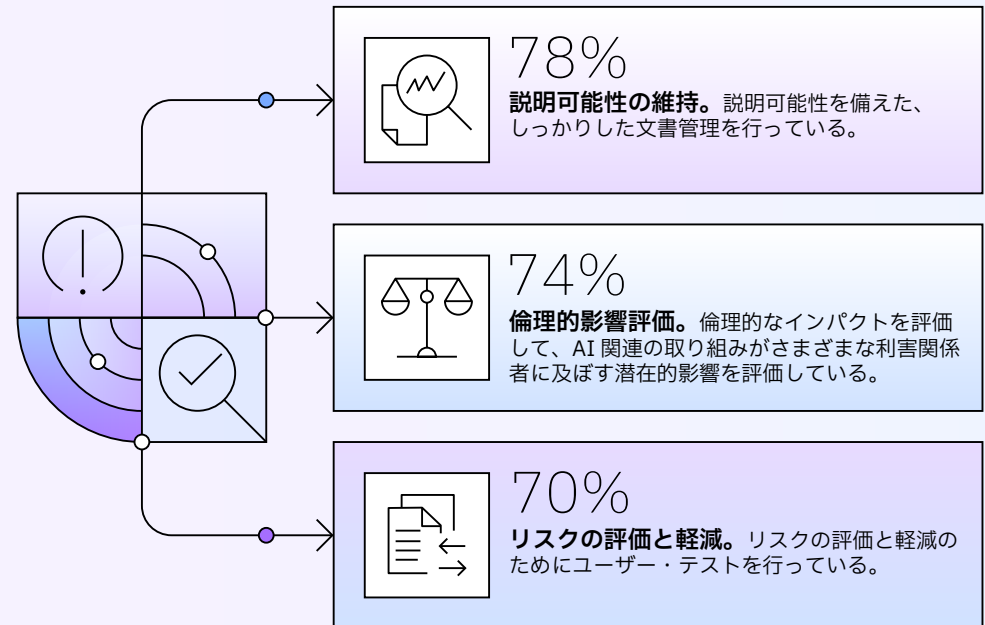
人々が AI モデルへの入力データや出力結果を信頼するためには、説明可能性（AI の出力を理解し信頼できる能力）が重要である。そして、その説明可能性はデータの

出所によって支えられる。説明可能性は、生成 AI モデルがどのように出力を生成しているかを説明するだけに限定されない。より高リスクなケースでは、各出力結果において、データ来歴標準に基づくデータ経歴の説明とともに、証拠を提供することが適切だ。

IBV の調査では、経営層のほとんどが説明可能性の重要性を認識していると答えている。78% がしっかりした文書管理を行い、74% が倫理的影響評価を実施し、70% がリスクの評価と軽減のためにユーザー・テストを行っている（図 4 参照）。

図 4

IBV の調査では、経営層のほとんどが説明可能性の重要性を認識していると回答している。



AI の仕組みに 人間の感覚を 織り込む

1. 人間と AI が連携し、監視しやすい AI システムを設計する。

再現性のあるパターンを作って拡張することによって、AI システムおよびその透明性のあるメタデータに、利用者の誰もが技術理解度を問わずにアクセスできるようにする。

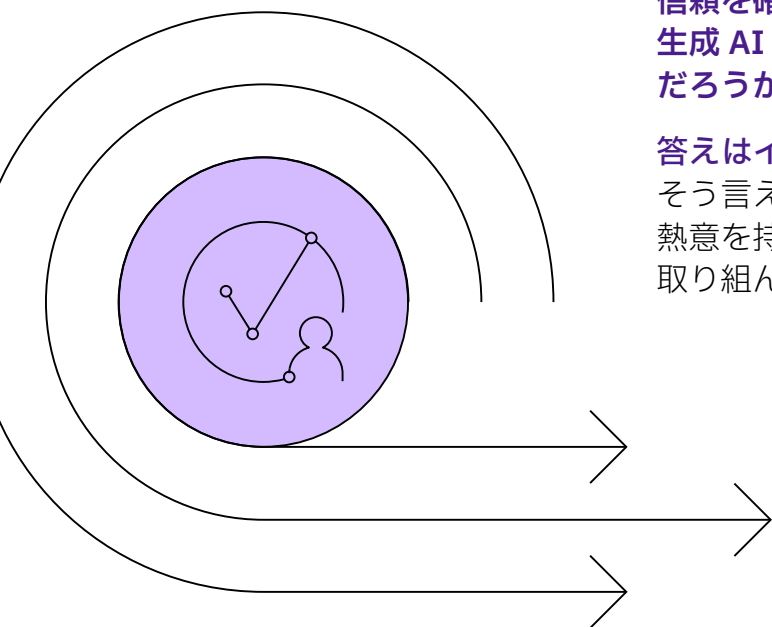
2. 説明と監査が可能な AI の出力を 優先する。

実践的なトレーニングへ投資し、AI リテラシーを高める。また、人間中心のシステムを設計し、開発する明確なガイダンスを提供する。

3. AI の出力が混乱を招くものである場合は、遠慮なく声を上げることを従業員に 奨励する。

AI の構築・設計・調達担当者に、データ中心のアプローチではなく、人間中心のアプローチを採用させ、出力後の評価方法についても十分に検討させる。従業員と適切なコミュニケーションをとり、自分が扱う AI モデルのさまざまな潜在的影響について、彼らが自信を持って質問できるようにする。

ガバナンスと 信頼構築



**生成 AI は信頼できるのだろうか。
信頼を確保するための安全策と、
生成 AI の力はバランスを保てる
だろうか。**

答えはイエスだ。ただし、
そう言えるのは組織が献身と
熱意を持って AI ガバナンスに
取り組んでいる場合だけだ。

AI モデルをトレーニングしたり、チューニングしたり、推論したりするために使うデータを理解することが重要だ。組織が AI をどう活用できるかは、組織全体でデータをどのように選択、統制、分析、適用するかによってほぼ決まる。透明性を持ってそのプロセスを伝えることこそが、時間をかけながら徐々に信頼を築き、維持していくための方法である。

ガバナンスは、生成 AI ライフサイクルのすべての段階において、サイロに分けられた部門ごとではなく、組織全体にわたって組み込む必要がある。しかも、最高経営層がリーダーとなり、戦略的指針や、評価、フィードバックを提供しなければならない。2024 年の「Edelman Trust Barometer」調査によると、全世界

の回答者のうち 79% が、「CEO はテクノロジーの倫理的使用についてはっきり意見を述べることが重要だ」と答えている²⁰。

究極のところ、AI ガバナンスは単なる規則、制限、規制、要件にとどまるものではない。それは、効果的な連携を実現させるために、共通理解を深めることだ。この共通理解があれば、不確実性を低減し、予測可能性を向上させることができる。そして、こうした取り組みは、実際に AI 開発のスピードを加速させる可能性がある。経営層レベルの後押しがあれば、AI ガバナンスはもはや単なる IT の問題ではなく、価値創造、成長、イノベーション、人間と AI の連携による可能性の開拓につながる中枢戦略と見なされるようになるだろう。

著者

Phaedra Boinodiris

Global Leader for Trustworthy AI
IBM Consulting
(IBM コンサルティング、
「信頼できる AI」担当グローバル・リーダー)
pboinodi@us.ibm.com
<https://www.linkedin.com/in/phaedra/>

Brian Goehring

Associate Partner and AI Research Lead
Institute for Business Value
IBM Consulting
(IBM コンサルティング、Institute for Business Value、
アソシエイト・パートナー兼 AI リサーチ・リード)
goehring@us.ibm.com
<https://www.linkedin.com/in/brian-c-goehring-9b5a453/>

Milena Pribic

Design Principal, Ethical AI Practices
IBM Software
(IBM ソフトウェア、
倫理的 AI プラクティス担当デザイン・プリンシパル)
mpribic@us.ibm.com
<https://www.linkedin.com/in/milenapribic/>

Catherine Quinlan

Vice President, AI Ethics
IBM Chief Privacy Officer
(IBM 最高プライバシー責任者、
AI 倫理担当バイスプレジデント)
cquinlan@us.ibm.com
<https://www.linkedin.com/in/catherinemquinlan/>

ご協力を賜った方々

Sara Aboulhosn、Lee Cox、
Rachna Handa、Christina Montgomery、
Shyam Nagarajan、Dasha Simons、
Michael Tucker、Kush Varshney（敬称略）

変化する世界に 対応するためのパートナー

IBM はお客様と協力して、ビジネス・イン
サイト、高度な研究成果、およびテクノロ
ジーの専門知識を組み合わせることにより、
急速に変化し続ける今日の環境における
卓越した優位性の確立を可能にします。

日本語翻訳監修

山田敦

日本アイ・ビー・エム株式会社
AI 倫理チーム・リーダー
データサイエンティスト職・リーダー
技術理事

IBM Institute for Business Value

IBM Institute for Business Value (IBV) は、
20 年以上にわたって IBM のソート・リー
ダーシップ・シンクタンクとしての役割を
担い、ビジネス・リーダーの意思決定を支
援するため、研究と技術に裏付けられた戦
略的洞察を提供しています。IBV は、ビジ
ネスやテクノロジー、社会が交差する特異
な立ち位置にあり、毎年、何千もの経営層、
消費者、専門家を対象に調査、インタビュー
および意見交換を行い、そこから信頼性が
高く、刺激的で実行可能な知見をまとめて
います。IBV が発行するニュースレターは、
ibm.com/ibv よりお申し込みいただけます。
また、LinkedIn (ibm.co/ibv-linkedin) をフォ
ローいただくと、定期的に情報を入手する
ことができます。

関連レポート

The CEO's Guide to Generative AI: Manage unpredictable risks

邦訳「予測不能なリスクを管理する」

<https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/jp-ja/report/ceo-ai-risk-management-jp>

The CEO's Guide to Generative AI: Responsible AI & ethics

邦訳『人任せにはできない、「倫理への取り
組み」』

<https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/en-us/report/ceo-generative-ai/responsible-ai-ethics>

The ingenuity of generative AI 邦訳「生成 AI の真の価値を引き出す」

<https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/jp-ja/report/scale-generative-ai>

注釈および出典

1. Goehring, Brian, Manish Goyal, Ritika Gunnar, Anthony Marshall, and Aya Soffer. The ingenuity of generative AI. IBM Institute for Business Value. 2024 年 6 月。邦訳「生成 AI の真の価値を引き出す」<https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/jp-ja/report/scale-generative-ai>
2. Mucci, Tim and Stryker, Cole. “What is AI governance?” IBM ブログ。2023 年 11 月 28 日。邦訳「AI ガバナンスとは。」<https://www.ibm.com/jp-ja/topics/ai-governance>
3. Constantino, Tor. “AI’s Risky Business, MIT Researchers Catalogue Over 750 AI Risks.” Forbes. 2024 年 9 月 11 日。 <https://www.forbes.com/sites/torconstantino/2024/09/11/ais-risky-business-mit-researchers-catalogue-over-750-ai-risks/>
4. Data Governance is a Top Priority for 65% of Data Leaders-Insights From 600+ Data Leaders For 2024.” Humans of data. 2024 年 3 月 28 日。 <https://humansofdata.atlan.com/2024/03/future-of-data-analytics-2024/>
5. The CEO’s guide to generative AI: Risk management. IBM Institute for Business Value. 2024 年 8 月。邦訳「予測不能なリスクを管理する」<https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/jp-ja/report/ceo-ai-risk-management-jp>
6. Lin, Belle. “AI Regulation Is Coming. Fortune 500 Companies Are Bracing for Impact.” The Wall Street Journal. 2024 年 8 月 27 日。 <https://www.wsj.com/articles/ai-regulation-is-coming-fortune-500-companies-are-bracing-for-impact-94bba201>
7. IBM Design for AI のガイドラインと定義。
8. What is explainable AI? IBM. 邦訳「説明可能な AI とは」<https://www.ibm.com/jp-ja/topics/explainable-ai>
9. What is data provenance? IBM. 邦訳「データ・プロビナンスとは」<https://www.ibm.com/jp-ja/think/topics/data-provenance>
10. Disruption by design: Evolving experiences in the age of generative AI. IBM Institute for Business Value. 2024 年 6 月。邦訳「ディスラプション・バイ・デザイン：生成 AI 時代に進化する顧客体験」<https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/jp-ja/report/generative-ai-experience-design>
11. Foody, Kathleen. “Explainer: Questioning blurs meaning of ‘lawful but awful’”. AP. 2021 年 4 月 7 日。 <https://apnews.com/article/death-of-george-floyd-george-floyd-cba9d3991675231122e2b68fbd5b4b00>
12. Montgomery, Christina and Francesca Rossi. “A look into IBM’s AI ethics governance framework.” IBM ブログ。2023 年 12 月 4 日。 <https://www.ibm.com/blog/a-look-into-ibms-ai-ethics-governance-framework/>
13. 6 hard truths CEOs must face. IBM Institute for Business Value. 2024 年 5 月。邦訳「CEO に立ちはだかる 6 つの真実」<https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/jp-ja/c-suite-study/ceo>
14. A Flexible Maturity Model for AI Governance Based on the NIST Risk Management Framework. IEEE USA. 2024 年 7 月。 <https://ieeusa.org/product/a-flexible-maturity-model-for-ai-governance/>
15. The Data & Trust Alliance. 2024 年 9 月 28 日閲覧。 <https://dataandtrustalliance.org/about>
16. Duarte, Fabio. “Amount of data created daily (2024).” 2024 年 6 月 13 日。 Exploding Topics. <https://explodingtopics.com/blog/data-generated-per-day>
17. OECD AI Principles overview. OECD. AI Policy Observatory. 2019 年 5 月。 <https://oecd.ai/en/ai-principles>
18. 社内の IBM ケース・スタディー。
19. Edelman, Margot. “Why the human touch is needed to harness AI tools for communications.” World Economic Forum. 2024 年 6 月 18 日。 <https://www.weforum.org/agenda/2024/06/human-touch-harness-ai-tools-communications/>
20. 同上



© Copyright IBM Corporation 2024

IBM Corporation
New Orchard Road
Armonk, NY 10504

Produced in the United States of America | October 2024

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Watson は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては www.ibm.com/legal/copytrade.shtml (US) をご覧ください。

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なわけではありません。

本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

本レポートは、一般的なガイダンスの提供のみを目的としており、詳細な調査や専門的な判断の実行の代用とされることを意図したものではありません。IBM は、本書を信頼した結果として組織または個人が被ったいかなる損失についても、一切責任を負わないものとします。

本レポートの中で使用されているデータは、第三者のソースから得られている場合があります。IBM はかかるデータに対する独自の検証、妥当性確認、または監査は行っていません。かかるデータを使用して得られた結果は「そのままの状態」で提供されており、IBM は明示的にも黙示的にも、それを明言したり保証したりするものではありません。

本書は英語版「The enterprise guide to AI governance - Three trust factors that can't be ignored」の日本語訳として提供されるものです。